ニッケイ新聞
JORNAL NIKKEY SHIMBUN
DIRETOR PRESIDENTE
RAUL M. TAKAKI
JORNALISTA RESPONSÁVEL
TAKAO MIYAGUI
Rua da Glória, 332 - Liberdade
CEP 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
Tel (11) 3340-6060 | www.nikkeyshimbun.jp

ボウソナロ　エスカレートする奇行

ラマジェム巡り最高裁と対決
メディアや知事たちを罵倒

コロナ検査の結果は提出せず

４月２９日に起きた、最高裁によるアレッシャンドレ・ラマジェム氏の連邦警察長官就任差し止めに対し、同氏の就任に固執するボウソナロ大統領が、４月３０日にアレッシャンドレ・デ・モラエス判事に対決姿勢で強弁するなど、ボウソナロ大統領に独善的な物言いが続いている。４月２８、３０日付伯字紙、サイトが報じている。

4月30日のボウソナロ大統領（Marcos Correa/PR）

４月２９日に行われたアンドレ・メンドンサ新法相の就任式で、ボウソナロ大統領は、「まもなく、新しい連邦警察長官も発表できるはずだ」と語り、モラエス判事による差し止め命令を無視してラマジェム氏を強行就任させる可能性を示唆した。

ラマジェム氏はボウソナロ家と家族ぐるみの付き合いがあり、同氏を連警長官に指名したのも、連警が行っている大統領次男カルロス氏に関する捜査など、大統領一家に関わる捜査妨害や捜査の進捗状況に関する情報入手が目的との疑惑があがっており、そのための差し止めだ。連邦警察側も、セルジオ・モロ前法相人脈でもあるジズネイ・ロセッティ長官代行の継続を望んでいた。

だが、ボウソナロ氏はモラエス氏の命令後、いったんは指名を取り消したものの、その後に態度を一変。連邦総弁護庁（ＡＧＵ）の忠告を拒否し、モラエス判事の判断は「政治的決定」「判事一人の判断で、大統領による任命を差し止めるとは何事か」「憲法には大統領に任命権があると明記されている。憲法を尊重すべき」「決めるのは私だ」と主張し、最高裁に控訴を行うように、ＡＧＵに指示した。

この件はじめ、４月２９日から３０日のボウソナロ大統領の言動はエスカレートしている。２９日は大統領府内を前所属の社会自由党（ＰＳＬ）の２５人の下議たちと練り歩き、取材陣との応対でも、下議たちが口出しをし、大統領を擁護するなどの行為が見られた。

また、同日夜には自身のフェイスブックで、世界保健機関（ＷＨＯ）が「幼児に自慰行為や同性愛を勧める」と批判したが、引用した内容がまるっきり異なる文脈であったことなどを指摘され、２０分ほどで削除した。

さらに、３０日朝にはグローボ局を「リッショ（ゴミ）」「ポルカリア（ガラクタ）」と呼び、放送認可の延長を差し止めると威嚇的発言を行った上、証拠もないままに「コロナウルスの援助金の横流しを行っている州がある」などとも発言した。

他方、司法界からの大統領への締め付けも厳しくなっている。大統領は４月３０日、聖州連邦地裁に、４８時間以内に提出を命じられていたコロナウイルス検査の結果を提出したが、診断書なしで「陰性」と報告した。

また、最高裁のルイス・フクス判事からは、ボウソナロ氏が下議時代にスポートライト社から受けた光熱費の過払い疑惑に関する捜査依頼を連邦検察庁に出された。

さらに、国連がボウソナロ政権を、「何百万人もの命を危険にさらしている」と厳しく批判する報告を出したことが４月２９日に明らかになっている。

東西南北

ボウソナロ大統領は４月３０日、出演したラジオ番組の中で「コロナにかかっていたのかもしれないが、何も感じなかった」とし、初めて感染していた可能性を認めた。一方、大統領四男のレナン氏も前夜、「以前、コロナに感染したけど、あんなのはただのグリペジーニャ（軽い風邪）」とＳＮＳで発言した。大統領は裁判所からの命令で検査結果の提出を求められたが、診断書は出さずに「陰性だった」と報告した。連邦政府内では３月までに２０人以上がコロナに感染。もし、あの時期に感染していたなら、デモの群衆などに自ら触りに行った行為は犯罪として扱われる。死者も５千人を超えた今、冗談では済まされないが。

◎

４月２４日に、セルジオ・モロ前法相から、ボウソナロ大統領による圧力行為に加担したと指摘されたカルラ・ザンベッリ下議も、問題視される言動が相次いでいる。同下議は、大統領が指名したラマジェム氏の連警長官就任を阻止したアレッシャンドレ・デ・モラエス判事を、「ＰＣＣ（聖州最大の犯罪集団）と繋がっている」と揶揄した上、「伯国ではからの棺桶が墓場に埋められている」とコロナ禍をも否定した。

◎

「隔離、段階解除か」と思われていた聖市だが、それは起こらず、逆に前より厳しくなることに。隔離生活が２カ月目に突入したことで、州民には疲労と家計への心配が募っている。その上、一度は「緩める」との意向を表明したこともあって、州民のモチベーション維持が難しくなる。なんとか気を取り直し、感染者、死者の減少に協力したいところだが。

最高裁
大統領三男の訴え却下
フェイクニュースＣＰＭＩは継続

ボウソナロ大統領三男のエドゥアルド下議（社会自由党・ＰＳＬ）が起こしていた、両院合同のフェイクニュースに関する議会調査委員会（ＣＰＭＩ）差し止め請求が、最高裁のジウマール・メンデス判事によって却下された。４月３０日付伯字サイトが報じている。

エドゥアルド下議は４月２０日に、ＣＰＭＩの継続停止と昨年１２月に行われた委員会の無効化を訴えていた。

１２月の委員会は２度開かれ、その内の１回では、エドゥアルド氏と同じ政党で、同氏の後任のＰＳＬ下院リーダーでもあるジョイセ・ハッセルマン氏が招かれ、連邦政府のフェイクニュース拡散グループ「憎悪部隊」のリーダーは、大統領次男カルロス氏とエドゥアルド氏の二人だと証言していた。

エドゥアルド氏は訴状で、ＣＰＭＩが方向性を失い、自分を迫害する場になったと主張した。

だが、メンデス判事は、「ＣＰＭＩは行うべき活動を実践したにすぎない」とし、ジョイセ下議の行動を正当化した。

フェイクニュースのＣＰＭＩは、これによって活動継続が保障された。

同ＣＰＭＩには先月２４日にボウソナロ大統領との対立で電撃辞任したセルジオ・モロ前法相の参加が見込まれており、注目度が高まっている。

前法相は、大統領を告発するためではなく、辞任当時、大統領府内で行われていた不正な活動に関する重要な証言を行うために参加するとの意向を明らかにしている。

コロナショック
感染者８万５３８０、死者５９０１
聖市リオで隔離厳格化も

【既報関連】新型コロナウイルスの被害は拡大を続け、４月３０日の保健省発表では、感染者８万５３８０人、死者５９０１人に達した。前日比での感染者数は７２１８人（９・２％）、死者数は４３５人（８・０％）の増加だ。

州別の感染者数、死者数で１位、２位の聖州、リオ州では、社会隔離政策の延長や厳格化の可能性も出ていると、４月３０日付伯字各サイトが報じた。

感染者数、死者数１位の聖州は５月１０日まで州全域で外出自粛令、基幹業務以外の営業停止令が出ている。一番感染規模が大きい聖市では、１１日以降も外出自粛令が延長され、規定も厳格化されるのではと報じられた。

聖市保健局長のエジソン・アパレシド氏は、「聖市は５月１０日で社会隔離政策を緩められる状態にはない。現状の隔離率（平日は４８％）をもっと高くするため、隔離厳格化も検討中だ」と語った。市は幹線道路を封鎖することも検討している。

４月２４日現在の聖市の地区別の死者数（疑われる例も含む）最多は、ブラジランジアの８１人で、サポペンバの７７人、サンマテウスの５８人が続く。

理想的な隔離率７０％に遠く及ばない中、聖市では感染者が増え続けている。２月２６日から４月２３日までの疑似症患者の報告数は４万５５１８人で、１日平均８１２人ずつ増えていたが、４月２４～２６の３日間の報告数は１万人以上で、１日平均３４００人以上に跳ね上がった。

ロックダウン示唆する専門家

市民たちの隔離への忍耐が限界に近付いていることは州政府の懸念材料だ。特に感染拡大の激しい聖市では医療システムへの負荷が過大になり、新しい患者の受け入れが困難になりつつある。

聖市３カ所目の臨時病院を視察する、ドリア聖州知事（左端）とコーヴァス聖市長（聖州政府提供）

聖州に次いで感染者数と死者数が多いリオ州でも、４月３０日に、リオ州政府とリオ市が隔離政策延長を発表した。リオ市のマルセロ・クリヴェラ市長は５月１５日まで、リオ州のウィルソン・ヴィッツェル知事は５月１１日までの延長を表明している。

クリヴェラ市長は４月２９日に、今後も死者の増加ペースが収まらなければ、最も厳格な〝ロックダウン（都市封鎖）〟を含む、より厳格な社会隔離政策をとる意向を表明している。

保健省予防接種伝染病局元局長のジュリオ・クローダ氏は４月２８日、州別感染者数３位のセアラー州の州都フォルタレーザ市と５位のアマゾナス州の州都マナウス市はロックダウンを行うべき状態だと発言した。

ロックダウンは人々の往来を完全に禁止する、最も厳しい社会隔離政策で、中国やイタリア、スペインで採られた。伯国ではまだ採用されていないが、４月２７日発表の疫学速報第１４号はその可能性も示唆している。

クローダ氏は、国土が広い伯国では「コロナ対策も、地域毎に、人口や病床数、医療インフラの充実度を考慮して変化させるべき」としている。

コロナ禍
感染拡大率４８カ国で最大
４０日後も続く死者急増傾向

【既報関連】新型コロナウイルスによる最初の感染者が確認されてから６５日目、最初の死者が出てからでは４５日目の４月３０日、エスタード紙やＧ１サイトなどが、伯国は他の国々よりも感染の広がり方が激しく、１日あたりの死者数がまだ増え続けていると指摘する研究結果を報じた。

英国のインペリアル・カレッジ（ＩＣ）が４月２９日に発表した４８カ国の状況分析によると、伯国では１人の感染者が２・８１人に感染を広げており、４８カ国で最も多い。１人からの感染者数が多いのは、アイルランド２・２４、メキシコ１・９５、ポーランド１・７８、ペルー１・５５、ロシア１・５２など。最低はギリシャの０・４１だ。

このデータは、伯国の感染拡大のペースが速い事や感染の連鎖を断ち切れていない事を明らかにしている。４月２９日の伯国の感染者は１日で６２７６人増え７万８１６２人、死者も４４９人増の５４６６人となった。

だが、伯国の感染者や死者数は、検査対象が限定されている事や死因不明の死者やコロナ感染が死因と見られている死者が多い事からもわかるように、実態からかけ離れており、最低５０万人が感染しているはずという専門家もいる。

伯国は最初の死者発生後の１日毎の死者数の推移でも突出しており、死者数の伸びが早い上、４０日を過ぎてもグラフの角度が変わっていない。ＩＣＵは、伯国では今週中に５千人以上の死者が出る可能性を指摘。米国の死者は１万３千～５千人の予想だが、同国の感染拡大は既に減速中だ。

ＩＣは感染症の統計調査には実績があり、英国が社会的隔離政策を採用したのもＩＣの進言を受けたものだ。ＩＣは、社会的隔離政策の緩和条件に、集中治療室が充分にある、死者数減少が２週間以上続く、１人の感染者からの感染者数が１・１以下、感染を避けるための保護具や検査が確保されている、感染拡大が起きていないかを監視するシステムがあるの５項目を挙げている。

伯国ではどの項目も満たせていないのに隔離緩和が話題となっている。厳格な感染予防策を採用し、緩和にも慎重だったドイツでも緩和後は感染者数が再び増加に転じているし、伯国で一部緩和を行った州や市でも、感染者急増を見ている。

そういう意味で、ボウソナロ大統領が隔離緩和を説く姿勢は、国際的な懸念の種だ。ネウソン・タイシ保健相は４月２９日、隔離政策を決めるのは知事や市長としつつ、感染拡大が続く間は緩和すべきではないとの見解を表明。「感染拡大のピークがいつかは誰も知らない」とも語った。

社会的隔離を難しくする、緊急援助金を引き下ろすために出来た長蛇の列（Prefeitura de Caruaru）

１～３月の失業率１２・２％
コロナの影響は４月以降か

地理統計院（ＩＢＧＥ）が４月３０日に発表した全国家庭サンプル調査（Ｐｎａｄ）によると、今年１月～３月の平均失業率は１２・２％、失業者の実数は１２９０万人だったことが分かった。同日付現地ニュースサイトが報じた。

この数字をその直前の昨年１０～１２月の平均失業率１０・９％と比較すると、１・３％ポイント（Ｐ）増加している。実数にすると１２０万人が求職者の列に加わった計算だ。なお、昨年１～３月の１２・７％と比較すると、今年は０・５％Ｐ下がり、失業者はむしろ減っている。

伯国で新型コロナウイルスの感染者が確認されたのは２月２６日で、感染はそれ以降、国内全土に加速度的に広まった。３月下旬には各州で、特定業種の営業禁止令や、外出自粛令も出たが、３月締めのデータにコロナ禍がどこまで影響したかは不明だ。

今年１～３月の就業人口は９２２０万人で、昨年１０～１２月の９４５０万人と比べ、２・５％減少した。ＩＢＧＥによると、これは統計開始以来最大の下げ幅だ。これまでの最大下げ幅は、２０１５年第４四半期から１６年第１四半期にかけての１・７％減だった。

同調査では、非正規雇用者が最も影響を受けたことも明らかになった。「昨年第４四半期から今年第１四半期にかけて職を失った２３０万人の内、１９０万人が非正規雇用者だった」と調査アナリストのアドリアナ・ベリンガイ氏は語っている。

従来のＰｎａｄは対面調査だったが、今回は、コロナ禍のせいで電話調査のみとなっている。

□緊急時の連絡先□

●サンパウロ日伯援護協会「本部事務局」
TEL: (11) 3274-6483
朝８時から午後５時まで。日本語対応可。相談内容に応じて、福祉士などに回す。

●サンタクルス病院
「新型コロナウイルス感染症の緊急外来受診のためのコールセンター」
TEL: (11) 97572-4602　日本語対応、24時間。

●万が一、医療機関等に隔離され、日本政府の援護が必要な場合の在外公館の連絡先リスト

⇒**在ブラジル大使館（連邦区、ゴイアス州、トカンチンス州）**
代表電話 (61) 3442-4200 ／ 夜間連絡先 : ブラジル国内から（地域番号なし）4003-2142
サイト： https://www.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒**在サンパウロ総領事館（サンパウロ州、マト・グロッソ州、マト・グロッソ・ド・スール州、三角ミナス地域）**
代表電話 (11) 3254-0100　サイト : https://www.sp.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒**在クリチバ総領事館（パラナ州、サンタ・カタリーナ州）**
代表電話 (41) 3322-4919　サイト : https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒**在ベレン領事事務所（パラ州、マラニョン州、アマパ州、ピアウイ州）**
代表電話 (91) 3249-3344　サイト : https://www.belem.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒**在リオデジャネイロ総領事館（リオデジャネイロ州、エスピリト・サント州、ミナス・ジェライス州）**
代表電話 : (41) 3322-4919 ／ 受付時間外及び休館日 : ブラジル国内から (0) 21-3461-9595
サイト : https://www.rio.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒**在ポルトアレグレ領事事務所（リオ・グランデ・ド・スール州）**
代表電話 : (51) 3334-1299　サイト : https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000040.html

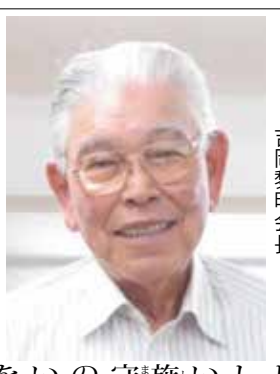
⇒**在マナウス総領事館（アマゾナス州、ロンドニア州、ロライマ州、アクレ州）**
代表電話 : (92) 3232-2000　サイト : https://www.manaus.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒**在レシフェ総領事館（セアラー州、リオ・グランデ・ド・ノルテ州、セルジッペ州、ペルナンブコ州、アラゴアス州、バイア州、パライバ州）**
代表電話 : (81) 3049-8300　サイト : https://www.recife.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

コロナ災禍 連帯メッセージリレー（７）

細心の注意払って高齢者介護
皆様のおかげで守られる憩の園

救済会　会長　吉岡黎明


吉岡黎明会長

私は3月14日に会長に選出されたばかり。いきなりのパンデミックに驚かされました。

救済会が運営する老人ホーム「憩の園」では67人の高齢者が暮らしており、職員は家族同然に介護をしています。世界的な大災害パンデミックですが、我々に分かっていることは、咳やくしゃみなどの飛沫から感染すると言うことだけ。

そのために高齢者の家族に可能であれば、自宅へ連れて行ってもらい隔離をお願いしました。しかし、自宅で世話をしたくてもできない人も多くいます。施設では高齢者を守るために衛生面への細心の注意を払い、訪問者の制限をして高齢者との接触をなるべく防ぐほか選択肢はありません。

施設では介護に不可欠な資材が不足することもありますが、職員はできる限りの手立てを尽くしてくれており、この献身に称賛を送りたいです。

この場を借りて物資や資金支援をしていただいた皆様に深く感謝を申し上げます。

第2次世界大戦以来の世界的災禍に、人類は見舞われています。ウイルスという眼で見えない災害は、世界中で数え切れない損害を与えています。

ウイルス感染はアマゾンの熱帯雨林に住んでいる原住民にすら及び、人口が集中しているニューヨークでは大きな被害を与えています。

WHOが勧告する隔離措置は実行不可能です。農家は販売経路を絶たれて大損失を出し、実際にモジ・ダス・クルーゼス市の農家から「売れなかった野菜は数トンにもなる」と聞いています。

次の収穫の時でもまだ感染症は続いているでしょう。生産者は経済的に困窮して農業は崩壊し、都市の人々は飢餓で死んでしまいます。

一方、産業も麻痺しカマドの火は消え、従業員は解雇されてしまうでしょう。収入がなければ生き残れません。

ブラジル政府は低所得者を助ける必要がありますが、低所得者の中には600レアルという慎ましい支援金すら受け取ることが非常に難しい人がいると思います。

さらに悪いことに今年は選挙の年で、連邦政府と立法、司法のトップはお互いのことを理解せず、連邦と州や市も関係は悪化する一途です。

NHKによれば、日本の人々はより規律的で政府からの宣言を尊重している印象があります。さらに日本は台風や地震、津波、洪水などの度重なる災害を乗り越えて災害に対する心構えや対策ができているようです。

2011年3月に発生した東日本大震災の際にも日本政府の行動は迅速でした。

今回日本は地域的に感染を制限しようとしましたが失敗し、抑えることができていないようです。それでも人々は外出自粛を実行して人が集まる事をさけ、あの渋谷駅にも通行人が少なくなるほどです。

愛する人を失った家族、生き残るために苦労している人、医療従事者、仕事を失った皆様に、今こそ共感のメッセージをお伝えしたい。

救済会会長として、寄付をしてくれた個人と企業に、高齢者のためにたゆまぬ努力をする従業員とボランティアの方々へに感謝します。多くの方々の協力によって、憩の園は恐ろしいウイルスから守られています。大変ありがとうございます。

救済会の創立者の一人、ドナ・マルガリーダ渡辺（1900―1996、鹿児島）と入園者（『救済会の37年』の表紙より）

【寄付のお願い】

救済会ではコロナ災禍により、寄付金の減少などの経営危機に直面しています。職員たちはマスク、医療用エプロン、医療用手袋、アルコールジェルなどの基本的な衛生用品が不足しています。資金でも物資でも寄付を受け付けています。

【正式団体名】Razão Social: Assistência Social Dom José Gaspar

CNPJ: 61.734.232/0001-68

【寄付の振込先】

■ Banco Bradesco

Agencia 0131-7

Cc 47647-1

■ Banco Santander

Agencia 4551

Cc 13000193-2

振り込んだら救済会事務局（contato@ikoinosono.org.br）までメールを。領収書を返送する。

【問い合わせ電話】１１・２４８０・１１２２

【憩の園住所】※寄付品は憩の園現地（Rua Jardim de Repouso São Francisco, 881 – Guarulhos）でも受付中。

今日のお言葉　E DAÍ
意味／「それで」

「E DAÍ」という言い方はボウソナロ大統領が最近、期待される返事と異なる答え方をしたので、町雀の注目を集めています。

（１）２８日、コロナウイルスでブラジルの死者が５０１７人となり、本家の中国のそれを超えたので、記者が大統領にコメントを求めたところ、「E DAÍ！（それで?）」と返し、おまけに「ワシの名前（ミドルネーム）には『メシアス』があるが、救世主ではないから奇跡を起こせない」「死ぬ人も居れば、生きる人もいる。それが人生でないか」と回答し、国際的に話題になりました。

日本ではアレコレ言う前に、まず『亡くなった方々に心からのお悔やみを申し上げます』とか言いますが、大統領はそんなことどこ吹く風の様子だったので悪評でした。

（２）連邦警察長官に息子の知人を任命したことを聞かれ、また「E DAÍ」と返し、「全く知らない人より、良く知った人を選任したのだ。信頼のおける人を任命したのに何処が悪い?」とのこと。

この任命は各界から強い非難を受け、就任直前、最高裁判事からこの人事「保留」が発令されました。

最近、特にご機嫌斜めなボウソナロ大統領（Foto: Marcello Casal JrAgência Brasil）

「E DAÍ」は会話の繋ぎの言葉でもありますが、相手に反論して使った場合「それがどうした!」となります。けっこう強い言葉になるので、使う時は状況を見極めた方がいいかもしれませんね。（駒）

国際交流基金がオンラインで
若手監督の日本映画を紹介

国際交流基金が立ち上げたオンライン事業「Japanese Film Festival」（JFF）が、日本若手監督によるインディーズ映画の無料オンライン配信（https://www.japanesefilmfest.org/streaming/）を開始した。外国向けに日本映画の若手監督作品を紹介する意欲的な取り組みだ。

3月5日からの3カ月間の期間限定で公開しており、会員登録は不要。

若手映画監督とアーティストの登竜門となっている、映画と音楽を掛け合わせた映画祭「ムージック・ラボ（MOOSIC LAB）」で2017年と18年に入賞した12作品がオンライン視聴できる。字幕は英語。

▼大学の映画研究会所属の主人公と仲間たちが撮影に奔走する姿を描いた異色作『聖なるもの』（監督：岩切一空）

▼孤独な女子高生と転校生の交流を描いて同映画祭の観客賞を受賞した青春ドラマ『少女邂逅』（監督：枝優花）

▼同映画祭で準グランプリ、ベストミュージシャン賞、女優賞の3冠に輝いた青春ストーリー『なっちゃんはまだ新宿』（監督：首藤凛）

▼男女の間に友情は本当に存在するのか? アラサー女性編集者がたまたま出会ったレンタル“オトコトモダチ”の物語『月極オトコトモダチ』（監督：穐山茉由）

▼音楽を通じて出会った、幸福も不幸も知らない少年少女たちの不器用で空虚で美しい一夏の記憶。静かで孤独な青春映画の傑作『暁闇』（監督：阿部はりか）

▼渡辺紘文監督とロックバンドのトリプルファイヤーが組んだ人間ドラマ。現実と虚構を行き来しながら映画作りや観ることの意味を問う作品『普通は走り出す』（監督：渡辺紘文）

▼未来へと向かう10代の少女たちの姿を即興芝居で紡いでいく青春映画『無限ファンデーション』（監督：大崎章）

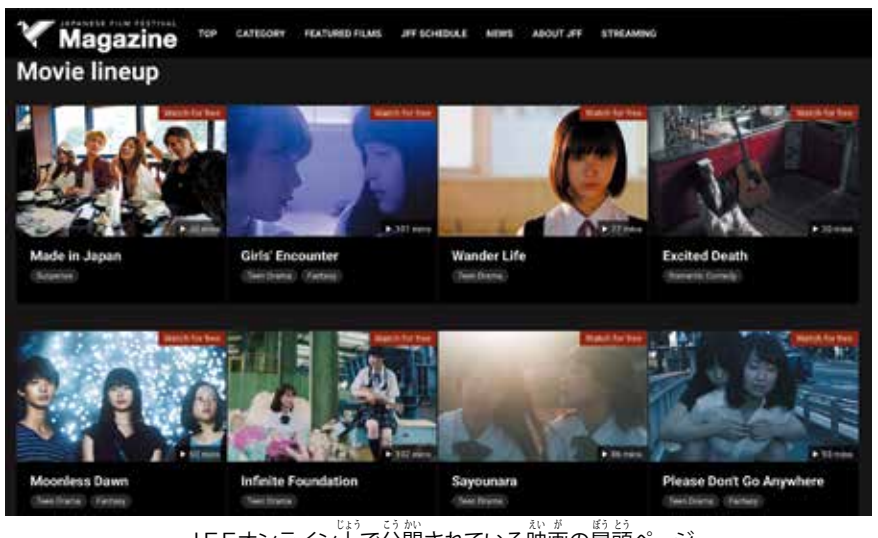
▼文章でしか自分の思いを伝えられない女子中学生を描いて同映画祭の長編部門で観客賞と最優秀女優賞に輝いた青春ドラマ『書くが、まま』（監督：上村奈帆）

▼海辺の町を舞台に描かれる、次世代の青春群像劇『左様なら』（監督：石橋夕帆）

▼恋をしてストーカーになり起きた出来事を綴ったラブコメディ『ドキ死』（監督：井上康平）

▼変わらない毎日に辟易していた男が、昔好きだった「後ろ向きアイドル」に山手線の車内で遭遇したことから始まる物語『内回りの二人』（監督：柴野太朗）

▼工業地帯の河川敷で凶悪な殺人事件が起きて、その記事を読み、犯人が昔のバイト先の後輩だったと知った主人公の物語『日本製造／メイド・イン・ジャパン』（監督：松本優作）



ＪＦＦオンライン上で公開されている映画の冒頭ページ

大耳 小耳

映画監督とアーティストの掛け合わせによって映画を制作し上映する映画祭「ムージック・ラボ（MOOSIC LAB）」は、2012年から始まり、数多くの新進気鋭監督や若手俳優だけでなくミュージシャンも輩出してきた。現在、オンラインストリーミングによるドラマ・映画視聴が当たり前になっているが、取り扱われるのはヒット作がほとんど。実験的なインディーズ作品を楽しみたい人は是非見てみては。

◎

サンパウロ州では5月4日（月）から、メトロやCPTM、バス、バスターミナル、タクシー、ウーベルなどの交通機関を使う時は、マスクを着用することが義務付けられた。サンパウロ大都市圏が中心だが、ドリア州知事は「全州で着用することを要請する」と強調している。マスクをしていない人には、各交通機関の職員らが、口頭で教育的な指導や注意をするとのこと。もしバス利用者にマスク未着用者がみつかったら、バス会社は1便あたり3300レアルの罰金を市から課せられるとか。皆さん、交通機関を使うときは必ずマスク着用を。

□休刊のお知らせ□

5月1日（金）が祝日「労働者の日」のため、2日付（土）本紙は休刊します。次の刊行日は5日付（火）になります。

樹海
大統領選でモロ対ボウソナロの可能性は?

4月24日のセルジオ・モロ法相の突然の辞任は伯国社会全体を揺るがした。このショックで、ボウソナロ大統領は熱狂的支持基盤を築いてきたSNSでの支持者数が万単位の人数で減少。大統領に大きなダメージまで与えている。

さらに言えば、ダッタフォーリヤの世論調査で、モロ氏が糾弾した「大統領による連邦警察の捜査への干渉」に関しても、世論の56％が「信じる」と答え、「信じない」の28％の2倍を記録した。

昨年のうちから、「22年の大統領選でボウソナロ氏に勝つ人物がいるとしたらモロ氏」ということは一部メディアでも指摘されていた。今回の両者の対決を「大統領選での前哨戦」と見る向きさえあるが、果たして22年の大統領選で、この両者の対決の可能性はあるのだろうか。

この問いに対しコラム子はあえて「あり得るが、その確率は高くない」と答えておくことにしたい。

なぜか。まず一つは、ボウソナロ氏自身が任期を全うできるかどうかが微妙だからだ。3月から続く、コロナウイルスに関しての非常識な見解や軍政復古支持デモへの参加、そしてモロ氏に対しての疑惑などで、現在、下院に罷免請求が殺到中で、大統領自身が罷免審議にまらないようにセントロン（議会中道派グループ）に交渉をしているほど。

コロナ禍の最中に政変を起こしてほしくないと願う国民に配慮して、マイア議長は動きこそ起こしていない。だが、同議長もボウソナロ支持者から日頃、批判の攻撃対象にされている張本人だ。恨みがなければ、この先、2年半、人気が持つとも思えない。ましてや誰とでもすぐ喧嘩をしてしまうボウソナロ氏のことだから、この関係が保てるかどうかも微妙だ。

一方、モロ氏の方だが、セウソ・デ・メロ最高裁判事が出した、大統領の連邦警察干渉疑惑の調査で、自身に有利な展開をいわけがない。罷免審議は一度却下されると勢いを失うため、むしろ良いタイミングを待っているのではないか。コラム子にはそうにしか見えない。

また、仮に今、セントロンが大統領側に付いたとしても、モロ氏のような目玉閣僚はもうおらず、大統領自身が批判していた「古い政治」の象徴的存在のセントロンと結託があり、口を開けば「汚職撲滅」しか言っていない印象がある。このコロナ禍に関しても自分自身の意見をなかなか発しないため、「モロ・スミウ（モロが消えた）」などと、よくネット上でからかわれてもいた。

加えて、同氏は過去に選挙に出た経験がない。そうした人物で大統領になった人物としてジウマ氏が思い出されるが、ご存知のように罷免を経験。それを思い出して不安になる国民もいるだろう。

モロ氏からうかがわれるのは「右翼」「保守」のイメージだけで、そこから「では、どういう政治をするのか?」の具体性は全く湧かない。これでは、選挙戦の最初はリードできても、投票時の勢いが出ない。

むしろ「正候補者に良いイメージを与える副候補」の方が良いのではないかと、コラム子は思う。聖州知事のジョアン・ドリア氏やリオ州知事のウィルソン・ヴィッツェル氏。コロナ対策も好評でボウソナロ氏との対立で名を挙げた彼らにつく方が無難だし、本来の力量にも見合う気がするのだが。そのことは内心、モロ氏自身も自覚していることではないだろうか。（陽）

モロ氏とボウソナロ氏（Antonio Cruz/Ag. Brasil）

聖州

救急車乗務の看護師死亡

定年退職断り勤務続行、コロナに倒れる

生前のシセロ・ロマン・デ・ソウザ氏（同氏のインスタグラムより）

聖州モジ・ダス・クルーゼス市（モジ市）の救急車スタッフ（看護師）として働いていたシセロ・ロマン・デ・ソウザさん（５１）が４月２２日、新型コロナウイルス感染症（ＣＯＶＩＤ－１９）に伴う複合症で死亡した。デ・ソウザさんはモジ市の救急車に同乗する看護師として２０年以上勤務しており、定年退職する権利を得ていたが、新型コロナウイルスの災禍が国を襲っている最中に退職することを望まず、「危機が落ち着くまで勤務を続け、その後に退職しよう」と勤務を続けていた。

デ・ソウザさんが勤務していたモジ市内第１７消防隊詰め所では４月２３日に、デ・ソウザさんの死を悼み、生前の功績をたたえるセレモニーが行われた。セレモニーでは救急車の警光灯とサイレンが鳴らされ、デ・ソウザさんがいかに立派だったか、そして、遺された隊員がいかにデ・ソウザさんの死を悲しんでいるかを伝える手紙が読まれた。

市保健局によると、デ・ソウザさんは同市で１４番目のコロナウイルスによる死者だ。デ・ソウザさんはモジ市内で、コロナにより命を落とした最初の医療従事者となった。４月２２日までのデータによると、モジ市内では１５６人のコロナ患者が出ているが、内５４人が医療従事者だ。

デ・ソウザさんは、周りの人から愛されていた。いつも冗談を忘れず、苛酷な任務の中でも同僚を支え、患者を励ました。入院の数日前、４月１４日にはコロナショックへの対応について、隊員とミーティングするほど元気だった。２日後の４月１６日、デ・ソウザさんは、上役であり、友人でもあったゴドイ中尉に電話をかけ、自分の健康状態について報告した。ゴドイ中尉は電話越しに、デ・ソウザさんが少し息切れを起こしていることを察したが、それ以外では元気そうだったと語る。デ・ソウザさんの死はそれから６日後。あまり早い容態の変化に、周りはショックを隠せない。

ゴドイ中尉も、「本当に驚いている、入院する直前に一緒に朝食をとった。その週の終わりに『彼が病気だ』と聞き、その後『容態は安定して回復している』とまで聞いていたのに」と語った。

聖州看護師協会のディレクター、ロドリゴ・ロマン氏も、デ・ソウザさんの馴染みだ。「シセロ（デ・ソウザさん）は自分の仕事を愛していた。職業人として素晴らしかった。私と苗字が同じで、事情を知らない人たちに、『俺たち、いとこなんだ』って冗談をよく言っていた。私も彼も、『よう、いとこ』と呼び合っていた」と語る。

医療の現場で働くロドリゴ・ロマン氏も自分の感染リスクを認識し、家族にうつしてはいけないと、もう３０日も自宅に帰っていない。だからこそ、デ・ソウザさんの死は、自分の仕事が危険と隣り合わせであることを再認識させた。ロマン氏は「現場の医療従事者は全員、感染の怖さを感じている。でも、これが私たちの役目。私たちは戦場で言えば最前線にいる。覚悟をもって最善を尽くすだけ」と語った。

（４月２４日付Ｇ１サイトより、４月２５日掲載）

聖州

公共交通機関利用時のマスク着用義務化

タクシー、Ｕｂｅｒにも有効

新型コロナウイルスによる死者が５千人を超え、中国を上回った伯国。国内２６州とブラジリア連邦直轄区の中でも、聖州が州別で感染者数、死者数共に最も多い。

そんな聖州では、４月３０日に公共交通機関やタクシー、Ｕｂｅｒなどの配車アプリタクシーの中でのマスク使用が義務付けられる州条例が署名される。マスクは布製でも構わない。

条例は聖州内全域で有効で、当然聖市でも有効だが、聖市は市条例としても、公共交通機関内でのマスク使用を義務付ける。

州条例は３連休を挟んで週明けの５月４日から有効だ。聖市の地下鉄や、都電（ＣＰＴＭ）、都市間バスの車内でのマスク着用が義務づけられる。ジョアン・ドリア聖州知事によると、この条例はＵｂｅｒやタクシー車内でも有効だ。運転手も乗客もマスクをしなくてはならない。聖市では、市内バスでも着用義務が生じる。

聖州では３月下旬から、既に１カ月以上、外出自粛令が出ているが、コロナの感染者、死者が一向に減らない。州政府はマスク着用義務化を、感染拡大抑制につなげたい意向だ。

「公共交通機関の運行会社は、州や市の職員により査察を受ける。公営機関であろうと、私営機関であろうと、違反が発覚した場合は警告処分となるが、警告後は罰金も科す」とドリア知事が述べた。ブルーノ・コーヴァス市長が出した聖市条例では、罰金は最大で１日あたり３３００レアルに達する。交通機関の運転手には、利用客がマスクを着けていない時は、乗車または走行を拒否する権限が与えられる。

ドリア知事は、５月１日に聖市内のイビラプエラ公園周辺のスポーツ施設敷地内に、パカエンブー、アニェンビーに続く第３の臨時病院をオープンさせることも発表した。この病院の病床数は２６８床で、これまでに開業した二つの病院と合わせると、病床数は２２６８床になる。ドリア知事はまた、５億５千万レアルを投じ、２種類の人工呼吸器、計３千台を中国から購入したことも明らかにした。これらの機器は随時、州内の公立病院に配られる。

（４月２９日付アジェンシア・ブラジルより、４月３０日掲載）

公共交通機関利用時のマスク着用義務化を発表するドリア知事（聖州政府）

当地メディアの広範なニュース

ブラジルレビュース

ホットな話題をここで

１千レアルの人工呼吸器

ＵＳＰが開発、承認待ち

新型コロナウイルスの感染拡大で人工呼吸器の需要が高まっているが、サンパウロ総合大学（ＵＳＰ）が、市場価格の１５分の１という廉価な人工呼吸器を開発。現場での臨床試験を行った後、国家衛生監督庁（Ａｎｖｉｓａ）の承認を得るべく、準備を進めている。

重症のコロナ感染症患者には必需品ともいえる人工呼吸器を少しでも迅速に、かつ廉価で調達したいと考える自治体が増えている中、ＵＳＰが開発した人工呼吸器は、僅か２時間で製造出来る。しかも、製作費は市場価格の１５分の１の１千レアルという優れものだ。

４月１７～１９日には、ＵＳＰ付属クリニカス病院の心臓研究所（Ｉｎｃｏｒ）の患者４人による臨床試験も行われた。臨床技師によると、試作品は市販の人工呼吸器同様、全ての患者に問題なく使用出来たという。

４月１３～１４日には動物での試験も行われ、正常に機能する事が確認されていた。臨床試験は国家調査倫理委員会の合意を得た上で、獣医学部と医学部の教授達の指導の下で行われた。

新たな人工呼吸器の開発は、生物医学、工学、機械工学などの技師や研究者、学生、民間企業の代表者などが参加して行われた。臨床試験では、圧力や酸素の量などを患者に合わせて調整出来るかも確認された。

伯国で使用されている人工呼吸器は輸入品が大半であるため、国内の企業が生産性を上げる事がジェクトの責任者であるＵＳＰのラウル・ゴンザレス・リマ教授によると、このプロジェクトでは、人工呼吸器に関するライセンスを公開。人工呼吸器そのものは、Ａｎｖｉｓａが承認した企業によって製造される。

ＵＳＰが開発した人工呼吸器インスピレ（Divulgação/Poli-USP）

人工呼吸器開発プロ

出来るよう、国内で利用出来る技術と国内で調達出来る部品を最大限に使って作る事を心掛けたという。その結果、僅か２時間足らず、しかも１千レアルで製造可能な人工呼吸器が生まれた。

新たに開発された人工呼吸器は緊急時も人の手を煩わさないよう配慮されており、近日中に臨床試験の結果を添えてＡｎｖｉｓａに送られる。また、Ａｎｖｉｓａからの承認を得た時点で、民間企業が製造を開始する事になっている。

（４月２７日付Ｇ１サイトより、４月２９日掲載）

パラー州

ピエトロ君、無事に退院

コロナで母は亡くなるも

北伯パラー州ベレン市で４月２２日夜、本当に小さな、でも、とても大きな勝利者が退院許可を受けた。

ガスパル・ヴィアナ・クリニカス病院から退院したのは、生後２３日のピエトロ君だ。ピエトロ君は３月３０日、妊娠３４週で生まれ、２３日間を、新生児用の集中治療室で過ごした。

ピエトロ君の母親は心臓疾患を持っており、９年前にガスパル・ヴィアナ病院で心臓の弁を交換する手術も受けていた。

自分がハイリスクなグループに属する事を知っていた母親は細心の注意を払っていたが、発熱と呼吸困難を起こし、３月３０日に同病院に運ばれた。母親の病状は重く、胎児を救うため、緊急の帝王切開が行われた。

こうして誕生したのがピエトロ君だったが、ピエトロ君は生まれた直後に蘇生術を施す必要があり、そのまま新生児用新集中治療室に運ばれた。

一方、母親がコロナウイルスに感染していた事は４月２日に明らかになり、別の病院で治療を受ける事になったが、治療の甲斐もなく、症状が悪化。４月１１日に帰らぬ人となった。

失意に暮れつつも、５歳の娘と共にピエトロ君の退院を待っていた父親は、２２日夜、後遺症もなく、吸いつく力も強い赤ん坊を、看護婦達の手から受け取った。

同州のエウデル・バルバーリョ知事はピエトロ君の退院を喜び、母親とピエトロ君の世話をした医療スタッフ達に、神の加護を祈ると共に、感謝と称賛の思いを込めたメッセージを贈った。また妻また母を失ったピエトロ君の家族にも、心からの弔意を表した。

（４月２２日付Ｇ１サイトより、４月２５日掲載）

ピエトロ君の退院を祝う病院関係者達（Ascom）

「その映画ならもう見た」

コーロル元大統領、ボウソナロの罷免を予告？

１９９２年に伯国で初の大統領罷免を体験した、フェルナンド・コーロル上院議員が４月２２日、現職のボウソナロ大統領に対して、罷免に注意するよう、呼びかけた。

コーロル氏は４月２２日、ツイッターで、最近のボウソナロ大統領と連邦議会との対立を案じるメッセージを流した。

ボウソナロ大統領は、４月１６日のルイス・エンリケ・マンデッタ保健相の解任と４月１９日の軍政復古支持デモへの参加以降、連邦議会と激しい対立状態にあり、「腐敗した議会が自分を罷免に追い込もうとしている」などと発言。連邦政府内部に非公式に存在し、次男カルロス氏が指揮をとる「嫌悪部隊」に命じて、ＳＮＳ上などで上院議長、下院議長に対する激しい中傷攻撃も行っている。

コーロル氏はそんなボウソナロ氏に対し、以下のようなツイートを送った。「大統領の役割とは国をまとめることだ。だが、我々が今、目の前で見ているのは、家族や友人たちによる喧嘩ばかりだ。そんなものは最悪だ。問題は深刻で、悪い結果は目に見えている。経験が生かされていないようなので、伝えておこう。私はその映画ならもう見た。それは決して良いものではなかった」

コーロル氏は、軍事政権から民主制に復帰した後に行われた、最初の直接選挙で当選した大統領だったが、就任３年目の１９９２年、連邦政府への議会の協力を取り付けるための贈賄にコーロル氏自身が関与したとして罷免審理にかけられ、下院が罷免を承認。最終的に罷免が決まるはずだった上院での承認直前に辞任した。

コーロル氏は０６年の上院議員選挙で当選して政界復帰。現在は２期目を務めている。

ボウソナロ氏に対しては、４月２４日現在で２４件の罷免申請が下院に届けられている上、最高裁のセウソ・デ・メロ判事が４月２３日にロドリゴ・マイア下院議長に対し、「１０日以内に罷免請求に対応しない理由を説明せよ」との命令も出すほど、問題が深刻化している。

また、４月２４日に辞任したセルジオ・モロ法相が、「大統領が政治的な理由で連邦警察のトップの人事を強行しようとした」と発言したことから、その請求はさらに増えるものとみられている。

（４月２２日付エスタード紙電子版、同ガゼッタなどより、４月２５日掲載）

「ＢＢＢ２０」が復活大成功

テコ入れが功を奏す

４月２７日夜、グローボ局の人気番組「ビッグ・ブラザー・ブラジル（ＢＢＢ）」の最終回が放送され、第２０シーズンにして、１０年ぶりの高視聴率を稼ぐ大成功を収めた。

「ＢＢＢ」は２００２年に第１シーズンの放送が始まった。元々のビッグ・ブラザーはオランダの番組で、名のない若者を共同生活させ、その中で人気のない人を毎週１人ずつ脱落させ、最終的な優勝者を決めるというショーだ。この番組は次第に、全世界にフランチャイズを持つ人気ショーとなった。

その伯国版、ＢＢＢも、参加者から、後に政治家になったジャン・ウイリスや女優となったグラッジ・マサフェラなどを輩出。２０００年代には最も視聴率の取れる番組にもなった。

だが、２０１０年代に入ると、こうした競争形式のリアリティ番組の人気そのものが下火となり、ビッグ・ブラザーの放送を打ち切る国も続出。現在は、なおも放送を続けている国の方が少なくなっており、ＢＢＢもここ数年、視聴率で苦戦していた。

だが今年、グローボ局は、２０回目の記念すべき年に、番組内で一つの賭けを行った。これまでのような「無名の若者」だけでなく、ユーチューブやインスタグラムといったＳＮＳで有名になった「インフルエンサー」を参加者に混ぜるスタイルをとったのだ。これまでの有名人とは違うタイプの新しい有名人を参加者に加えることで、視聴者の興味を引こうとの試みだ。

すると、それが功を奏した。番組への注目度が上がっただけではなく、番組内でおなじみのハプニングが人種差別や女性差別などの問題を生み、それがちょっとした社会問題にも発展した。

そうしているうちに、番組視聴者たちが毎週のように自分の贔屓の参加者をＳＮＳを通じて応援する現象も生まれ、それらの参加者の名前がツイッター・トレンドの上位を飾ることも頻繁に起きはじめた。

最終回となった４月２７日まで残ったのは女性参加者ばかりの３人。ユーチューバーのラファ、歌手や女優の卵のマヌ、そして、苦学の若き黒人で医師の卵のテルマが争い、視聴者投票の４４・１０％を獲得したテルマが優勝した。様々な差別問題が起こったシーズンで黒人女性が優勝したことは、多くの著名人にも喜ばれ、黒人人気女優のタイース・アラウージョらも賛辞を送った。

「ＢＢＢ」はすでに、来年の第２１シーズンの放送も決まっている。

（４月２８日付フォーリャ紙、３月４日付ＭＳＮなどより、４月２９日掲載）

優勝したテルマ（本人のインスタグラムより）

コロナ検査少ないブラジル

１千人あたり僅か０・６３人

英国のオックスフォード大学が作成したデータに基づいてＢＢＣニュースブラジルが行った国際比較によると、ブラジルは新型コロナウイルス感染検査が少ない国の一つであることが分かった。

ブラジル保健省によると、ブラジル国内の公共医療機関では、４月２０日までに１３万２４６７件の新型コロナウイルス感染検査の解析が行われた。また、解析中の検査も５万６６１３件あった。検査終了の１３万２４６７件と結果待ちの５万６６１３件を合わせると１８万９０８０件だ。

検査数１８万９０８０件は、ブラジルの総人口でみると、１千人あたり０・６３人で、キューバ（２・６５）、チリ（６・４３）、パラグアイ（０・８３）、ペルー（４・４４）、アルゼンチン（０・７６）、エクアドル（１・１５人）などのラテンアメリカ諸国と比べても低率だ。もちろん、ドイツ（２５・１１）、イタリア（２３・６４）、アメリカ（１２・０８）などと比較すると遥かに少ない。

人口１千人あたりの検査実施人数が最も多いのはアイスランド（１２７・５８）で、ルクセンブルク、バーレーン、エストニア、イスラエルが続く。ブラジルは国別ランキングには入っていないが、「１千人あたり０・６３人」をランキングで見ると、７５カ国中６０位だ。

調査報告書には、「新型コロナウイルスの正確な感染者数を知っている国は一つもない。分かるのは、検査を受けた人の中で何人が陽性だったかだけで、実際に感染した人の数は各国政府の公式発表よりはるかに多い」と記されていた。

新型コロナウイルスの真の感染範囲がわかれば、政府はその情報を使用して、コロナの蔓延を防ぐためにより適切な公共政策を策定し、患者やより脆弱なグループを隔離することができると専門家たちは述べている。

ブラジルでは、重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳ、ポルトガル語ではＳＲＡＧ）による入院が急増中だ。例えば、３月１５日～２１日の７日間では８千人以上が入院したが、昨年の同時期はの入院患者数は１千人だった。保健省によると、この時期にＳＡＲＳで入院した人の内、新型コロナに陽性反応を示したのは７８０人だけだったとしている。

記者会見で、ブラジル当局は検査の数が足りていないと認めた。問題の一つとして、世界中で検査キットの需要が高まっており、検査キットが手に入りにくいという事情があるとした。

ブラジルでは、社会隔離政策の徹底を進めるマンデッタ前保健相が、科学を軽視するボウソナロ大統領と対立して解任され、ネウソン・タイシ氏が就任したが、同新保健相は、大量の一斉テストの可能性を否定。「一斉テストは必要ない、限られたテストでも、その結果を、感染者の分布や症状の現れ方などを知るサンプル検査として分析すれば、全体を見渡すことが出来る。それを基に方策を練れば、効果的な策を実施できる」と語っている。

世界保健機関（ＷＨＯ）は３月に、世界各国に対して、新型コロナウイルスの世界的大流行と戦うために、国民に対して集団試験を実施するように要請した。ＷＨＯのテドロス事務局長はこの時、「徹底的に検査を行い、陽性者と濃厚接触者を特定した上で、その人々を隔離すれば、感染連鎖を断ち切ることが出来、感染拡大を防げる」と語っていた。

この作戦を徹底的に行い、成果を上げた国の一つが韓国だ。韓国は、厳しい外出禁止令を出す代わりに数百万人の国民を検査した。これにより、今では、感染発覚者も死者も大きく減少している。（４月２４日付ＢＢＣブラジルより、４月２８日掲載）

2019年12月29日版

中学生450人に「和の国」の話をしてみた

1．「なぜ、日本人は『おもてなし』の気持ちを持っているのか？」

さる10月中旬、千葉県柏市の麗澤中学で話をさせていただいた。中学生、それも全学年450人もの生徒たちに2時間も話すというのは初めての体験で、静かに聞いてくれるだろうか、と不安を抱きながらのスタートだった。

しかし、いざ話し始めると、そんな不安はすぐにすっ飛んでしまった。みな真剣な表情で聞いたり、一心にメモをとっている。日頃の躾が行き届いているのだろう。

話の始めに、先頃、日本中を沸かせたラグビーワールドカップをとりあげた。ウェールズ代表が公開練習で、北九州市のグランドに登場すると、5千人ものファンがウェールズ国歌〝Land of My Fathers〟を歌いながら、出迎えた。

ウェールズラグビー連盟のツイッターはそのビデオを流しながら、〝There isn't much more we can say than just let you watch this……〟（これを見て貰う以上に、語れることはない）と感激を伝えた。

各国代表をその国の国歌で迎えるのは、ラグビー元日本代表主将・廣瀬俊朗氏の発案で、出場20カ国のカナ付き歌詞カードが公開された。廣瀬氏曰く「きちんとその国の言葉で話ができなくても、その国のアンセム（国歌）を歌えば心が通じる」との事だが、何千人ものファンが、それに賛同して相手国の国歌を歌うというのは、もはや個人的な好意だけでは説明がつかない。

そういう「おもてなし」を大切に思う文化を、多くの国民が共有しているからこそ、こんな光景が実現した、と話した。その後で、生徒たちに質問した。「みなさん、なぜ、日本人はこれほどの『おもてなし』の気持ちを持っていると思いますか？」長いテーブルに3人ずつ座っていたので、各机で数分の議論の後、何グループかに回答を発表して貰った。

今日の伊勢さんのお話を聞いて、大切なのはおもてなしなのだということを改めて感じました。少し前に道徳の授業でおもてなしは日本の代表的な文化ということを学習しました。私も、おもてなしを持って生活していきたいなと思います。東京オリンピックでも、外国人にたくさんおもてなしをして、日本をもっと好きになってもらいたいです。

2．「東京オリンピックでも、外国人にたくさんおもてなしをして、日本をもっと好きになってもらいたいです」

最初に手を挙げた生徒の答えは「それが昔から文化として根付いているから」だった。「なるほど。それはいいポイントですね。でも、なぜ、それが昔から文化として根付いていたのでしょう」とさらに聞き返した。さすがにこう聞かれると、答えられるグループはなかった。

そこで、私は「古代の日本人は遠方からやってくるのは神様だと思っていた」という説を紹介した。「まれびと」に関する折口信夫の説である。正月に山から下りてくる神々を門松でお迎えするのも、その一種である、と説明した。「おもてなし」の文化については、何人もの生徒が感じたところがあったようで、一人の中1の男子生徒は、こう感想文に書いてくれた。

「たまたま日本に生まれて、日本人という自覚もないまま暮らしている我々よりも、彼らははるかに日本国民として立派だとと思いませんか」と私は語った。この言葉に、生徒たちはこう反応した。

その外国人たちは「一生、日本人としてラグビーをやっていこう」と決心して国せきをとるらしい。私たちは何の決意もせずに生まれてきていることから、自分が小さく見えてしまう。（中1男子）

特にラグビーワールドカップについての話が印象に残りました。日本代表の半分が外国人で、その中でも日本国籍をとっている人もいて、そのような人たちは、日本のために戦ってくれていてすごいなと思いました。（中3男子）

3．「日本のために戦ってくれていてすごいな」

続いて、日本代表チーム31人中、半分強の16人が外国生まれであり、そのうち9人が日本国籍をとっている事を説明した。残りの7人は国籍こそ取得していないが、一度、日本代表としてプレーすると、他国（それが母国であっても）の代表となることはできない。すなわち、彼らは生涯、日本代表としてプレーするという決意を持って、参加しているのである。

3年生は、この講演の後で、イギリスへの研修旅行を控えているとのことで、ラグビーを生んだ大英帝国について語った。

イギリスはヨーロッパの片隅の小さな国だったが、大英帝国の最盛期には地球上の面積の4分の1、人口の6分の1を支配し、なおかつ産業革命、金本位制、自由貿易、議会制民主主義、法治制度、英語などの政治・経済制度、文化を世界に広めた。まさに近代文明はイギリスが作ったのであり、この国を研修旅行先として選んだのは、先生方の見識の深さを示している。

その小さなイギリスが史上最強の大英帝国を築き上げた理由として、「偉人を顕彰する」文化がある事を説明した。たとえば、ロンドンの街のそこここには、ウインストン・チャーチル、ウェリントン公、ネルソン提督などの偉人の像が立つ。ナショナル・ポートレイト・ギャラリーには、個人の肖像画、彫像、写真などが約1万点も所蔵・展示されている。

偉人の人生を描く伝記文学もイギリスでは盛んだ。その中で、サミュエル・スマイルズの『自助論』は、大英帝国を築いた偉人たちを題材とした人生論である。たとえば、ナポレオン軍を打ち破った初代ウェリントン公爵アーサー・ウェルズリー（1769―1852）が借金返済を迫る債権者の前で縮こまっている光景から、その人格の高潔さを描いている。

この話から、ある3年女子は次のような感想を書いてくれた。

イギリスは自分の国に尽くすという意志が一人一人にあるから近代国となり、世界を支配できたと知り、尽くすことの大切さが分かりました。共同体のために役に立つ人になろうとすれば、全体的に強くなり、自分自身も高められるので、自分の力を高め、みんなのためになれるよう頑張ります。

それと同時に、イギリスも含めた近代の欧米諸国が1480年から1940年までの460年間に278回もの戦争をしてきた事を付言した。約1年8か月に1回のペースである。それに比べて、日本では1615年（豊臣氏滅亡）―1868年（大政奉還）の約250年間も平和が続いた。これを「徳川の平和」という。こんな感想もあった。

はっきり言って日本ってかなりたくさん戦争しているほうだと思ったけれど、昔の日本の様子を聞いて、やっぱり平和っていいなと思いました。（中2男子）

4．「1つの部分がくずれると全部がくずれてしまう」

日本代表選手たちは、合宿最終日に日向市の大御神社にある「さざれ石」を見学し、全員で「君が代」を斉唱した。そこから「君が代」の中の「さざれ石の巌となりて」という歌詞の意味を知っていますか、と聞いてみた。「さざれ石」とは小さな石で、それが「巌」、巨石となるというのは、どういう意味だろう、と。

実は、小さなさざれ石は長い間に、互いにセメントで固めたようにくっついて巨大な岩になる。これは日本の国民がそれぞれは小さな存在だが、多くの国民が力を合わせて立派な国を創っていることを象徴しているのです、と話した。ある中3の女生徒はこう書いている。

「君が代」にのっているさざれ石のような小さな石（＝国民1人1人）が巌（＝共同体）となって1つの国となっているという歌の歌詞がとても心にひびきました。今、ラグビーがとても熱狂しているけど、ラグビーのスクラムもそれと一緒で、1つの部分がくずれると全部がくずれてしまうことから、1つ1つの部分をおろそかにしてはいけないんだなと思いました。

「さざれ石」からスクラムを連想して、「1つ1つの部分をおろそかにしてはいけない」とまで考えているのは、私の説明をさらに深めた受け止め方で、こちらも勉強になった。

5．「イギリスが共同体のまとまりのおかげで大きくなった」

講演の結びは、1年生が水源林の見学に行ってきたというので、今上陛下が取り組まれている世界の水問題を取り上げた。

世界で6億6千3百万人もの人々が安心して飲める水源を身近に持たず、年間30万人の乳幼児が汚れた水を主要因とする下痢で命を落としている。アフリカでは土地はあり余るほどあるのに、水が不足しているために農耕ができず、食料不足に陥っている。水問題こそは現代人類が直面する最大の課題の一つである事を説明した。

私自身の体験でも、中国の天津で、外国人向けのそれなりのホテルに泊まったのに、水道からは砂の混じった茶色い水が出てくる。バスタブにお湯を貯めても砂混じりなので、どうしたらいいのか、と駐在員に聞いたら、しばらく待つと砂が底に沈むので、それからそっと砂を巻き上げないようにバスタブに入れば良いと教わった。

それに対して、我が国のご先祖様たちは水の神様を祀り、水が山から平野に安定的に流れるよう、河川を整備し無数のため池を作ってきた。水道の水をそのまま飲める国は世界にそれほどない、と話した。これについては、多くの生徒が感想を書いてくれた。

今私達が当たり前に使えている水の背景には先祖の人々の努力があるということを初めて知り、びっくりしました。これから水を大切に使おうと思いました。（中2女子）

6．「私たちが気軽に水が使えるのは、先人たちのおかげ」

普段、何気もなく蛇口をひねると、水が出て、手を洗ったり、飲んだりしている水は、他の国だと1時間かけてくみにいかなければなりません。今日、私たちが気軽に水が使えるのは、先人たちのおかげです。もしかしたら、数十年後には、こんなに水を気軽に使えないかもしれません。水を節約し、大切に使っていきたいとおもいました。（中3女子）

7．「共同体ということが大切なキーワード」

2年女子の一人は講演全体をこう総括してくれた。

今回の講座を受けて、最初にもおっしゃっていたが共同体ということが大切なキーワードだと思いました。日々生活をしていても、共同体という言葉はあまり聞かないけど、この講座では人として、国、助け合いなどは全て共同体ということが重要だと言っていると思いました。

その共同体には先祖から我々を経て子孫につながっていく縦軸と、学校、地域、国、世界へと広がっていく横軸がある。

縦文といったとても昔から今の日本の心が出来ていたと考えると、今までそれをつないできた先人たちに感謝したくなった。・・・日本のこのような大切な心持ちを日本人である私が知らないというのはとても恥ずかしくなった。もっと自国を知り、世界へと日本を発信し、後世の人間につないでいきたい。（中3男子）

日本人が古代からさまざまな〝おもてなしの心〟をもち、先祖の人々が色々考えながら行動してきたおかげで今の安定した国家があるんだということを知りました。そう考えると自分も人のために何か尽くせることがないか、よく考えることが必要だと思いました。（中3男子）

ぼくはこの話を聞いて、日本人のすごさを知りました。昔から日本人は助け合う精神を持っていて、江戸時代に一度も戦争がなかったのはすごいと思います。他にも今、水が使えるのは昔の人のおかげだし、色々と物が使えたりするのも、昔の人のおかげだと思います。だから日本の先人たちに感謝しようと思いました。そして自分も日本人らしく自国の人にも他国の人にも助け合いとして、豊かな社会を作ろうと思います。（中3男子）

8．「日本人らしく協力していきたいです」

こういう志を、まずは日々の行動に繋げていってもらいたい。そういう気持ちから、私は講演の結びとして「一燈照隅、万燈照国」という言葉を紹介した。一つのロウソクは片隅しか照らせないが、そういうロウソクが1万本も集まれば、国全体を照らせるという意味だ。この言葉を生徒たちは自分の生活の中で受け止めてくれたようだ。

いざという時に「人々が協力して一つのことをなしとげる」このことのすばらしさを知りました。・・・これから合唱コンクールなどもはじまります。最後の合唱なので日本人らしく協力していきたいです。（3年男子）

学校生活の中でも、クラスという共同体を意識して、より良い授業の受け方などができるといいと思いました。（中3女子）

話し終えて、講演会場から退出する時、びっくりするような大きな拍手で送られた。それもこれらの感想に書かれたように自分の先人たちの歴史伝統を発見した嬉しい驚きからだろう。450人の生徒たちの一人一人が一本のロウソクとして、ご先祖様からいただいた火で周囲を明るく照らしていって欲しい、と思った。

（文責　伊勢雅臣）

中学生たちは、我が国の「和の国」らしさを聞いて、何を思ったか。

※これを読めば自然に、日本の文化や歴史に関心がもてるような話を毎週掲載しています。より多くの二世の方や日本語学習者に読んでもらい、少しでも日本に興味を持ってもらえるよう、最寄りの日本語学校や日系団体の掲示板に張ったり、普段は邦字紙を読んでいない兄弟や子や孫などに記事を紹介してください。

（ニッケイ新聞編集部）

■リンク■

a．JOG（1132）「お陰様」と「おもてなし」
そこから生まれる清き明るい心持ちが幸福への近道であることを、我々のご先祖様たちは知っていた。
http://blog.jog-net.jp/201909/article_4.html

b．JOG（093）君が代クイズ
君が代は戦争侵略の歌？
http://www2s.biglobe.ne.jp/nippon/jogbd_h11_1/jog093.html

c．JOG（184）セント・ポール大聖堂にて～大英帝国建設の原動力
そこここに立つ偉人の彫像や記念碑は、未来の「精神の貴族」を育てる志の記憶装置である。
http://www2s.biglobe.ne.jp/nippon/jogbd_h13/jog184.html

d．JOG（1135）水の力と美しさに神々を見たご先祖様たち
水の恵みを神々に感謝し、水の力、美しさに賛嘆するご先祖様の感性が、豊かな国土を創り上げてきた。
http://blog.jog-net.jp/201910/article_4.html

国際派日本人養成講座
発行人＝伊勢雅臣（文責）
Mail: ise.masaomi@gmail.com
Twitter: https://twitter.com/#!/ise_masaomi
無料購読申込・取消:http://blog.jog-net.jp/

VENDA em BANCA

Nikkey Shimbun
ニッケイ新聞

ANO XXIII – Nº 5479 | SÃO PAULO, SEXTA-FEIRA, 1° DE MAIO DE 2020 | R$ 5,00

TEMPLO XINTOISTA DO BRASIL
南米神宮
開運 沼矛八方祓
Rua Estado de Israel, 76 - Vila Clementino SP
Tel: (11) 5575-4783 – www.temploxintoista.org.br

4月5日版

コロナ禍解決策

長引き大不況招く都市封鎖か
大量死の危険性ある集団免疫化か

新型コロナウイルスの発祥地である中国の武漢で、コロナで入院していたすべての患者が退院したと報じられた。中国は、武漢を含む全国で感染者が減り続けている。経済再開も進んでいる。

浙江省の衣料品などの工場では、コロナ危機前（春節前）の6割ぐらいしか従業員が戻ってきていないが、それでも工場をフル回転して春物の製品を作り、日本などに輸出している。中国では国内旅行も解禁され始めた。中国は、コロナ問題を解決した、コロナに勝利したかのようだ。

新型ウイルスは武漢のウイルス研究所から漏洩した疑いが強いのは確かだ。だが、もうコロナは中国に関係なく、欧米や日本など他国の問題になっている感じだ。

しかし、ここで疑問が湧く。中国は、コロナに対する集団免疫を獲得したのか??　獲得していない場合、それでも中国はコロナ危機を解決したと言えるのか??

実のところ、中国は集団免疫に至っていない。武漢の病院が最近、院内の病院関係者と通院者、退院者らを対象に抗体検査を実施したところ、過去にコロナに感染したことがある（コロナの免疫を持っている）人は約3％しかいなかった。

これが武漢全体の状況を象徴しているのなら、武漢は集団免疫にほど遠い。

武漢は中国で最初にコロナに感染した地域なので、武漢がこんな感じなら、中国の他の地域も、免疫保持者は3％かそれ以下であり、中国全体が集団免疫にほど遠い。

中国は1月末以降、全国的に強烈な都市閉鎖を2か月以上にわたって行い、感染拡大を全力で止めた。その結果、感染拡大が止められ、新たな感染者が少なくなった。

しかし、都市閉鎖が強烈だったため、無発症の感染者が増加して集団免疫が形成されていく過程が進まず、免疫保有者が少ない状態のままだ。

中国、NZも免疫保有者が少ないと、危険状態がいつまでも続く

免疫保有者が少ないところに外から新たな感染者が入ってくると、再び感染が広がってしまう。免疫保有者が60％以上ぐらいになると、感染者が外から入ってきても感染が広がりにくい集団免疫の状態になる。

中国は、国内の感染が落ち着いて国内の人の移動や交流が再開できても、国外からの人の流入と、中国人の海外渡航を、今後もずっと大きく制限し続けねばならない。中国は、他の世界の国々がすべて集団免疫を獲得するまで、外の世界と人的な交流ができず、国を閉ざし続けることが必要になる。

世界が集団免疫を獲得するまで、どのくらいかかるのか。コロナ危機が中国で発祥したのは昨年末で、すでにそれから120日ぐらい経った。今後その2倍の240日たって今年末になれば、世界的に集団免疫が獲得できるのか??

その場合でも、年内は国際的な人的交流ができなくなる。日本に中国人旅行者が来ないままだし、世界の航空会社の多くが潰れるか国有化される。

4月27日にはニュージーランド（NZ）での新規感染者が1人になり、NZ政府はコロナ問題を解決したと勝利宣言した。NZは3月下旬から続けてきた都市閉鎖を解除した。NZは集団免疫を獲得したのか??

入院中のジョンソン英首相
(Andrew Parsons / 10 Downing Street)

日本の新型コロナウイルス感染症対策本部の第25回会議にて、全世帯への布マスク2枚配布を表明する本部長の安倍晋三首相（4月1日、総理大臣官邸にて、首相官邸ホームページ）

全く違う。NZでは抗体検査が行われていない。NZ政府は「抗体検査はあてにならない」と言って、検査キットの輸入すら禁止しようとしている（実際には、中国製で誤判断する検査キットがあり問題になったが、それら以外の抗体検査キットは95％以上の確度だ）。

NZの隣の豪州には、集団免疫など神話だと断言する「専門家」すらいる。NZの上層部は集団免疫の概念自体を嫌っている。これまでの経緯から見て、NZの免疫保有率も3～5％ぐらいで集団免疫にほど遠いだろう。

となると、NZも中国同様、今後もずっと外国との人的交流を大幅に制限し続ける必要がある。

独自の集団免疫進めるスウェーデンの奇策

中国とNZは、コロナに勝利した「戦勝国」どうしだが、両国間の人的交流は再開できるのか??　難しいだろう。相互に、相手国のコロナ感染の状況を完全に信頼できる状態ではなさそうなので、交流を再開できない。

北欧のスウェーデン政府筋は、まもなく集団免疫を獲得できると言っている。スウェーデンが集団免疫を獲得したら、中国やNZはスウェーデンからの渡航を認めるか??　無理だろう。信用できないからだ。集団免疫の形成を高い確度で確定する方法もまだない。

世界的にコロナ危機が完全に終息したと信じられるまで、中国もNZも世界との人的交流を再開できない。コロナ危機の世界的な完全な解決――それはいつか??

今年末ではない。来年末か??　わからない。ワクチン完成時か??

それなら2025―30年ぐらいになる。ワクチンも完璧かどうか不明だ。新型ウイルスの特性自体が不確定なので、何も確定できず、信用できない。

途方もない長期間、国際的な人的交流や国際化が停止され続ける。世界中の旅客機を作るボーイング社は、経営の立て直しに何年もかかると発表した。当然だ。立て直せるかどうかも不明だ。

国際化・グローバリゼーションの状態は完全に終わる。金融バブル潰けだった米国が金融破綻し、米国の覇権体制が崩壊する。

免疫保有者はNY21％、東京30％?

免疫保有者が3％しかいない武漢と対照的に、米国のニューヨーク市は免疫保有者が21％いる。NY州が最近、広範な抗体検査を実施した。武漢は1月末から都市閉鎖に入ったが、NYは都市閉鎖が3月末からだ。

武漢で最初のコロナ発症者が出た昨年末以来、武漢など中国からNYに渡航した人からNY市内に感染者が広がり、都市閉鎖を開始する前にかなりの感染者（多くは無発症）がいたことになる。都市閉鎖に入るのが遅いほど、免疫保有者が多くなると推測できる。

NY市以外のNY州では、人口密度が低い地域ほど免疫保有者の割合が少ない。少ない地域だと5％ぐらいの交代保有率だった。都会の方が、都市閉鎖（外出禁止）前の人々の濃厚接触の頻度が高く、それが免疫保有率の高さにつながったのだろう。

NY市の免疫保有率が21％なら、東京の免疫保有率は30％以上かもしれない。中国に近い東京の方が、NYよりもコロナ危機発生直後の中国からの渡航者が多く、感染拡大の度合いも大きかったと考えられるからだ。

NYの都市閉鎖は3月末からだが、東京の非常事態（準都市閉鎖）は4月上旬からで、東京の方があとだ。日本は、欧米や中国よりゆるい自粛にとどめて経済を生かしつつ、隠然と集団免疫の形成を目指そうとしたが、トランプからダメだと言われて経済を自滅させる非常事態宣言をやらされ、集団免疫の形成を遅延させられている（コロナ危機はまだ序の口）。

日本や英国は、集団免疫に近づこうとして米国から妨害されて都市閉鎖っぽい方向に強制転換させられたが、日英のしかばねを乗り越え、国際的な誹謗中傷を乗り越えて集団免疫をやり続けているのがスウェーデンだ。

抗体検査のキット（Partynia / CC BY-SA）

ストックホルムはあと一歩の40―50％

スウェーデンでは広範な抗体検査がまだ行われていないようだが、政策決定にたずさわる医師によると、首都のストックホルムの状況は集団免疫まで数週間のところまできている。人口の60％が免疫を持つと集団免疫だと言われているので、ストックホルムの免疫率は40―50％ぐらいか。東京より1段高い程度だ。

先進諸国や、中国ロシアなど新興諸国は都市閉鎖をやっているが、発展途上諸国の多くはゆるい都市閉鎖しかやっていないか、何もやっていない。

カンボジアやベラルーシなどは、権力者が「うちではコロナが発症していない」と豪語して無策を貫いている。こういった国が、最も早く、ワイルドな形で集団免疫を獲得していくと考えられる。無策型のワイルドな集団免疫策は死者が増えるので「悪いやり方」だ。

悪いやり方をした国々は国際的に信用してもらえない。そもそも世界的に集団免疫の形成を確認する方法もないので、これらの国々も他の諸国との人的交流を絶たれたままだ。

集団免疫を疑問視するWHO

WHOは、抗体検査の陽性者である既感染者が免疫保有者であるとは限らないと言っている。

中国の研究によると、コロナの感染者のうち5―10％は体内に十分な量の抗体ができないまま治癒してしまうので再感染のおそれがある。

しかし、この「治癒」の状態が、本当の治癒なのか、それともPCR検査の確度の低さからくる偽陰性だったのかわからない。偽陰性だったなら、コロナの特性でなくPCR検査の特性の話になる。

相方を不確定だと攻撃する人の根拠自体が不確定だったりする。体内にできた抗体が何か月～何年もつのかも不明だ。これらは実際に抗体を持っている人に定期的に検査し続けることによってしか判明しない。

コロナと抗体の特性が確定的にわかるまで、集団免疫の形成を確定的に定義できない。それには何年もかかる。確定的にやろうとすると、集団免疫策はかなり難しいものになる。

欧米では、抗体検査によって免疫保有者と判明した人に「免疫旅券」や「免疫バッジ」をわたし、それらを持っている人から先に職場復帰させることで、都市閉鎖を解いていく免疫旅券政策が、集団免疫の具体策として提案されている。

だが、抗体がある人が絶対に再感染しないのか、他人に感染をうつさないのか、といったあたりのことが不確定だ。抗体保有者の0・1％でも感染する／させるのなら、それは感染を再拡大させるシステムになってしまう。そのためWHOは免疫旅券のやり方に反対している。

このように集団免疫策は不完全だ。集団免疫策は「人殺し」扱いされている。とくに軍産リベラル系のマスコミは、コロナの危険性を誇張して伝えると同時に、集団免疫策を異様に非難中傷してきた。

なぜ軍産がそのような傾向になるのかという理由は改めて分析したい。集団免疫策が不完全なのは事実だ。

都市閉鎖や外出自粛が最良策ではない事実

しかし同時にいえるのは、いま多くの諸国がやっている都市閉鎖や外出自粛（準都市閉鎖）が、確定的に「良い」政策であるとも全く言えないことだ。

中国の例でわかるように、閉鎖や自粛は強硬にやるほど、免疫保有者の増加を抑止し、短期的にはコロナに「勝利」しうるが、この勝利は近視眼的で、逆にそれによって都市や国家の閉鎖を長く続けねばならなくなる。

経済破綻、財政破綻、金融破綻、生活困窮者の増加など、閉鎖によるマイナス面の方がはるかに大きくなる。

閉鎖や自粛を長く続けた後、最終的に感染者が増えなくなる時、それは集団免疫が形成された時でもある。

感染によって人々が獲得した免疫が短期間しか続かない場合、再感染が増えて再閉鎖が必要になる。だが、免疫切れは全員がいっぺんになるものでなく、少しずつ切れていくだろうし、再感染しても80―96％は無発症か軽症だ。

このような世界的な感染状態が長引くほど、持病持ちや高齢者が減り、残った人類の重篤な発症者が減る。人類の平均寿命が短くなるだろうが、人類は新型ウイルスと共存していく。これが最悪の場合の解決状態だ。

どっちにしても集団免疫の形成が解決になる。集団免疫を政策として実行しなくても、何年後かのコロナが終息する状態は、集団免疫の自然な形成になる。そのうちにワクチンもできる。

日本の厳しい経済停止は長引く方向か

都市や国家の閉鎖はものすごく長引くだろう。それなら、閉鎖をゆるくして事態を集団免疫に近づけた方が得策だ。高齢の家族と同居していない若者の職場復帰を容認しようとした英国の専門家集団の案は合理的だった。

だが、マスコミなどにボロクソに言われて実現していない。軍産マスコミは本来、米国の覇権を永続させたいはずなのだが、コロナに関しては米国の覇権を自滅させる方向のプロパガンダを発しまくっている。

誰かが軍産マスコミを騙して自滅方向に走らせている。日本も、非常事態宣言の前は、隠然集団免疫策っぽくて今から思うと良かったのだが、おそらくトランプ政権からの横やりが入り、集団免疫に近づかせず事態を長引かせる今の強い自粛と経済停止の体制に変わった。

トランプ政権は隠れ多極主義で、コロナ危機を使って米国の覇権やドル・金融バブルの崩壊を引き起こしたいので、日銀がドル支援でなく、日本国内経済の支援に専念せざるをえなくなるよう、日本に厳しい経済停止をやらせているのだと思われる。

私のこの推論が正しいなら、日本経済を停止させる状態はまだしばらく続く。もし5月上旬に非常事態宣言が解除されても、経済活動の再開はとても限定的になる。（ウイルス危機が世界経済をリセットする）

コロナ関連の分析はなかなかすっきりしたものが書けない。試行錯誤だ。軍産や隠れ多極主義とコロナ危機の関係まで踏み込んで書きたいのだが、その前に感染そのものをめぐる政策や歪曲の分析でまだ手一杯だ。

今回はもう一本、一昨日完成しかけたが満足せずボツにした記事がある。新たに書いたものの方が良いという感じもしないので、ボツにした前の記事「集団免疫を遅らせる今のコロナ対策」も以下に掲載しておく。（集団免疫を遅らせる今のコロナ対策〈http://tanakanews.com/200426virus.htm〉）

【※出典確認は転載元サイト〈https://tanakanews.com/200428corona.htm〉で】